



東山小学校だより

令和 元年 5月 24日

※ 町内配付 5月 25日

教育目標 「心豊かに たくましく 自ら学ぶ 東山の子」

明日5/25(土)！いよいよ運動会 開催！！

いよいよ明日は待ちに待った運動会当日です。天気予報では今年一番の暑さになるということで熱中症が心配ですが、どうやら雨の心配はなく、グラウンドも水はけの悪い当校にしては上々のコンディションです。この学校だよりが地域の皆様に届くのは運動会後になるのでしょうか…筋肉痛になっている方もおいでかもしれません。

さて、4月25日の運動会結団式から1ヶ月。連休明けからの3週間は連日、準備や練習を重ねてきました。再三お伝えしてきましたが、高学年を中心に子どもたちが「自分たちが創る運動会」という意気込みを持ってアイデアを出し合い、いくつかの新しい試みを盛り込んで行う運動会です。実際にやってみなくてはなるか分からない部分も多々ありますが、これまでの動きから、すでに運動会は9割方成功と考えています。一般的にも「結果よりも過程が大切」と言うことがありますが、そういう場面は学校現場にはより多くあります。教育活動の目的は「子どもたちの成長」であり、運動会で言えば、運動会当日の1日よりも、それまでの準備期間にこそ子どもたちの成長する場面がたくさんあるのは明らかです。

毎朝、1年生と3,4年生教室から応援の声が聞こえてきます。5,6年生は応援旗や小道具(?)作りに余念がありません。小道具と言えば、ある日6年生に「これは何に使うの?」と尋ねたところ、「秘密です!」と教えてくれません…地域の方々だけでなく、先生方をも楽しませ驚かせてやろうと考えているようです。5年生は来年の運動会に向けてのアイデアまで考えているとも聞きました。そんなふうにも上級生である5,6年生が運動会に向けていきいきと準備や練習をしている様子があるま3,4年生に、そして1年生に伝わっていくのでしょう。なんと、5,6年生が不在だった昨日の昼休みには、3,4年生が自主的に1年生にリレーのバトンパスを教えている姿がありました。このように、全校が前向きに、楽しそうに運動会に向かう雰囲気の中で今日までやってきました。

子どもたちが「自分たちの手で成功させたい」と主体的に意欲を持って取り組むことが、どれほど重要で価値のあるものかということ、私自身ひしひしと実感しています。明日の運動会が本当に楽しみです。



連絡：運動会当日、気温上昇の状況によっては全体進行を中断し、『給水タイム』を取りたいと考えております。子どもたちの水筒の中身は「水またはお茶」としてありますが、『給水タイム』の際は保護者様の下で「スポーツドリンクや経口補水液」等の補給が望ましいと思われるので、そのようにご用意いただければ幸いです。

東小千谷小学校との交流(5年生=若栃交流体験・6年生=修学旅行)

23日(木)5年生が若栃地区での農村体験に東小千谷小学校の児童とともにに行ってきました。それに先立って連休直後には東小で事前の勉強会をしました。勉強会で若栃未来会議の方からお話を聞いたり、グループ作りをしたりして昨日の農村体験を迎えました。当日は東小から若栃地区までの11キロの道のりを歩き、現地で昼食を取った後、田植えをしました。東小の児童は民泊しますが、当校の5年生は現地からスクールバスで学校に戻ってきました。秋にも稲刈りを通じて交流し、その際は一緒に民泊する予定です。こうして来年の修学旅行に向けて交流を深めていきます。

そして、これまで交流を深めてきた6年生が、22日(水)・23日(木)の連日、いよいよ迫ってきた修学旅行の事前学習のため、東小千谷小学校へ行って来ました。実は当初、22日のグループ作りや役割分担にのみ行く予定でしたが、当日になって「明日コース作りをする」と聞いた6年生3人と担任の希望で、翌日のグループ自主見学のコース作りにも、急きょ参加することにしました。

これまでも当校は東小と合同で修学旅行に行っています。「合同」とは言え、計画づくり等には参加していなかったため「付いて行く」という趣だったのが否めません。「コース作りに携わりたい」というのは、より実りある修学旅行にするための正しい希望だと思いました。直談判にきた担任は全てを言いませんでしたが、その言外に「子どもたちを気後れさせたくない」という思いがあるのだろうなと思いました。

学校田「田植え」

14日(火)、今年も引き続き「田んぼの先生」を引き受けてくださった磯部正行さん(中山)のご指導の下、お借りする田んぼで「田植え」を行いました。他の学校は5年生だけが行うことが多いのですが、当校は毎年3年生以上の児童で田植え・稲刈りを行っています。すでに2~3回経験している5,6年生は手慣れたもの…。「ゴロ」で枠をつけ、みんなで手際よく植えることができました。

多くの小学校で稲作体験をするようになったのは20年前頃からです。学習指導要領改訂の際に「総合的な学習の時間」が新設され、その5年生の学習内容に「食を考える」が示されてのことです。しかし農業体験と言っても、今や見かけなくなった手植えの「田植え」と鎌を使う「稲刈り」が中心で、あとは稲の生長の観察をしたり、草取りをしたりする程度です。果たしてそれで農業を知り、食を考えることになるのだろうか…という思いがあるのも確かですが、今どきの子どもたちにとっては、田んぼに裸足で入ることだけでも貴重な体験です。それにしても、美しい棚田には手植えの光景が似合います。



令和元年度 東山小学校 6月の生活目標

「心のキャッチボール！とどける・うけとる・うれしくなる」

- 相手の目を見て、相手に聞こえる声であいさつしよう！
- その場(相手・状況)にふさわしいあいさつをしよう！

6月には東小千谷中学校区で「小中連携あいさつ運動」が予定されています。また校内でも工夫を凝らした楽しい「あいさつ運動」を保健委員会が計画中です。

とかく「あいさつ」というと「大きな声で元気よく」が求められます。事実、昨年の東山小学校4月の生活目標は「『いつでも・どこでも・だれにでも』元気なあいさつや返事をしよう！」でした。基本的には「元気なあいさつ」が良いですが、あいさつの本質は「心のキャッチボール」であって、声の大きさや形ではなく、おたがいの心が通うことだと思います。

毎朝、子どもたちが教務室に大きな声で元気にあいさつをしています。とても微笑ましい、嬉しい光景ですが、時折ちょうど先生方が電話の対応をされていて、片耳をふさぐ様子を見かけたりします。さあ、そんな時はどのようにあいさつをするのがよいのでしょうか。家族のあいさつ・友だちとのあいさつ・地域の方とのあいさつ・先生とのあいさつ…様々な相手、そして場面があります。

生活目標を意識しながらあいさつ運動に取り組み、「あいさつ」の意義や効果を考えたり、時と場に応じたあいさつができるようになってほしいと思います。

ご家庭や地域でも素敵なあいさつの輪が広がるよう、保護者、地域の皆様からも子どもたちにお声掛けいただけますとありがたいです。